

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成30(2018)年
8月号
通巻576号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成30年8月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷 監製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



沖繩愛楽園(国立ハンセン病療養所)の水タンクの被弾痕 大阪府羽曳野市 青山哲也さん撮影(文・5頁)

平成6(1994)年4月30日 エミサリーの皆さんとの座談より

続・互いに通じるものを感じて(4・最終回)

於：大本宮拝殿

法主 矢追日聖(満82歳)

参加者(発言から推測して)

石垣雅設

石垣清水

マーシャ・ボゴリン*

ユージン・パク*

ユージンの母

パトリシア・タシロ

五百木邑子

山端法玄

ジル・シチュアリー

金靄子

李章根

通訳・上野幸夫、
*印の方が英語での発言

宗教人としてなすべきこと

法主 今、そこで大きな声出して走っている男がおりますやろ。中村昇次というんやけどね、61か62歳のろうあ者です。東京ではもう入れてもらえない施設がなくで、持て余してたんです。縁があつて私に相談に来た。うちやったら救護施設に該当しますが、そんなことをすれば職員が泣きますがな。私が個人で、家族として引き取りました。その代わり親兄弟には、池に落ちて死んだとかどんな事故があつたか、大倭に連れていったらこんなことになつたとか言わないでほしいと、まあ縁切りしたんです。(※当時、大倭在任約20年)

うちにいる時は夜昼なしにワアワア言うてるし、奈良中を自転車で走り回って有名になつてる。この間なんかバスと衝突

突しよってん、怪我もせんかつたけどな。カッとすると障害者手帳も破いて捨てたりすんねんけど、それでも自分で市役所に行つてちゃんと再発行してもらつてくる。

そんなんで、ここは変わり者のおることです有名などこですねん。

中でも私が一番皆に迷惑をかけてるのは、「交流の家」やねん。昭和40年頃かな、FIWC(フレンズ・インターナショナル・ワーク・キャンプ)というキリスト教フレンズ派の流れを汲む団体やね、その関西委員会の学生が訪ねて来たんですよ。ライつてありますやろ(※以降、ハンセン病)、あちこちの療養所に入つてるんですよ。菌がなくなつていくけど、顔や手に後遺症が残つてますから、旅行しても宿泊を断られる。その人達が泊まれる家を建てたいと言ふんです。私は、その土地が空いているから建てたらいいと、簡単に提供してあげた。工学やら建築やらやつている者もおるし、学生が自分らで造るんやからね。ブロックを積んで建て始めたところ、さあ、奈良県の北和全部が反対、奈良市長まで反対して、えらい社会問題になりました。私はひっぱり出されて、「土地の提供を撤回せよ」と地元の人達にぐるりを取り巻かれたりしましてね。

私は断固、撤回しない。市長とも談判しましたんで、市会議員達がびつくりして臨時市会を開いて、私のところへ交渉に来ました。私は、京大の皮膚科へ行ってハンセン病の話聞いてきなさい、東京の藤楓協会(※ハンセン病についての啓蒙活動をしてきた)へ行つてきなさい、それから話をしましょうと言ふたんです。6人の市会議員が選考されて専門家の話を聞いてきて、これは純然たる差別の問題であると分かつたので、地元との調停をしてくれました。

FIWCの建てた部分はいったん取りこわして、奈良市が設計しなおして、仕事は全部学生がしました。出来上がつてからは、ハンセン病回復者の人達が大阪地方に来た時とかね、交流の家で寝泊まりするようになりました。

これ、私は取り巻かれた時、袋叩きにあつてもかまへんと思ひました。命がけやつてん。一般人の出来ないことをするのが宗教人の役目ですもの。人の幸せになるためにするんやからね。これが福祉の世界やと思ひます。

紫陽花邑の方でも4、5人のハンセン病回復者と生活しました。同じ風呂に入るんやから、世間の人は怖がつてましたわ。私はええんやけど、うちの子供が学校で敬遠されてね、学校へ抗議にも行きました。

まあ過去にはそんないろいろなことがありましたが、今はこないしてすつこんでます。

神ながらは仏教用語で説明できる

法主 私は飛行機にはまだ乗つたことがない。ハンセン病のことなんかで袋叩きになるとか、そんなことは怖くないんです。おかしいと思うやろけど、飛行機に乗るのが怖いんですよ。

それは何故かと言つと、世の中にはやつぱり善と悪があります。悪がなければ善もないんですよ。善があると悪もある。私を取り巻いているのは善の方ばかりです。そうすると私が動くというのは、悪があるから動ける。それで仕事もできるんです。

ところが私が飛行機に乗つたと仮定すると、悪想念の邪霊が付いて回るんです。他の乗客が一緒にパタンといかれた時に気の毒でしょ。それで私は絶対に乗らない。私が動いたら悪が付いてくる、これはもう宇宙の原理ですな。世の中、な

んば善にしようと思たかて、悪があるから善が出てくるのやからね、めつたに悪は消えませぬ。

平和平和、戦争反対となんば言つたかて、戦争することが出来てきますな。今でもヨーロッパでやつとる。宇宙の仕組みというのは善悪が一つやからね。それが分かるから、私は飛行機に乗れませぬねん。けれども車やつたら乗ります。邪霊が付いて回る反面、善霊が守つてくれますし。私はこれまで善のことばかりさせてもらつてますけど、反面には悪というのをいつも意識しているから善い方ができるんです。私の中では善悪をはつきり区別できてるんですが、本質的には一つですもんね。どこから善、どこから悪つてないんです。全て裏表で、どちらが表で裏かわからないし、切ることもできない。

それで霊界の人が外に出るな言うので、私は日本にすつこんでますな。けど行かれないだけに、こないに遠くから来て頂けるから非常に嬉しいんです。(通訳の上野さんに向かつて) 難しいやろ。自分としては悪い方のことはせんように努めますけど、自分の中に悪い心もあるから世間の悪いことも分かりますな。人間の心の中には、皆、仏教的に言えば十界の地獄、餓鬼、畜生というような心も入つてんねん。菩薩、仏の心ばつかりとちがいます。(※十界は迷いと悟りの全世界を十種に分けたもの。地獄界・餓鬼界・畜生界・修羅界・人間界・天上界までが迷いの世界、声聞界・縁覚界・菩薩界・仏界が悟りの世界。広辞苑による)

私は仏教の哲理は好きですな。神ながらの哲理は、みな仏教用語で説明できるんです。アジアの仏教の高僧なんかは、哲学に徹している人が多かつた。最初にお釈迦さんが偉かつたんですけど、「如是我聞」(※我はこのように伝え聞いた)と

いう弟子も偉かったと思う。

神ながらは、味の世界です。食べた時に味は分かるけど説明ができない。それを説明する時、仏教用語を借りたら一番便利ですね。キリスト教のことは知りませんが、やっぱりヨーロッパとアジア、言葉がちがう。私やったらアジアの言葉がよう分かりますわな。神道と仏教と切り離す人もありますが、私は心の中で神さんやの仏さんやの区別がありません。仏教の方がお出でになつたかて、私はものすごく親しみが持てるんです。

特に禅の方が言わはることはよう分かるんです。禅かて、本当は言葉よりも味でしょ。味は食つてみないと分からない。説明せい言われても難しい。それで仏教が説明してくれるから好きなんです。

祭壇に誕生のお釈迦さんを置いてあるやろ。誕生した時すぐに「天上天下唯我独尊」と言つたという話がありますが、あれは靈感のある人が心で受けとめたものやと思います。言葉では出してないけど、心で物を言うてはるんや。人間誰でも皆そうですよ。胎児の時でもお腹の中で物を言うてるんやからね。オギャーと生まれた瞬間に、お釈迦さんがそう言つたというの私はほんまやと思ふ。

何もうぬぼれて自分が一番偉いというのではない。誰でも皆、「唯我独尊」ですよ。自分の持つて生まれてきた一大事の因縁というのが尊いという事ですものね。神ながらで捉えるから意味が分かるんです。

仏教でも宗派にこだわっている人は、あんまりね。それ昔の雲水みたいなのが一番ええわ。お寺もあらへん、嫁さんおらへん、家族もないわというのが一番けつこうな味やつたと思う。わしはあんなの好きやねん。

「八紘会」当時のこと

石垣 お互いに何か心と心の波長が合う者同士が、一つの塊をつくつていけたらええと思うんですよ。

それがあつちでもこつちでも出来てきたら、平和に結びつくんじゃないかと。それは反面、悪いグループも出来てくるはずやけど。

法主さん、少し話がちがうんですけど、以前、戦争中に小磯(国昭)大將が朝鮮総督として行く時、法主さんがお話をしたと言つておられたんです。今日は在日の李章根さんと金鷹子さんがおられるので、ちょっとそのお話をしつて頂けませんでしょうか。

法主 うん。その頃、私は東京の百人町におつたんです。「八紘会」という会を持つてたんやな。松井(石根)大將の弟さんは陸軍の少将やつたけど、私と心安かつたんで、軍人さんのことをよく知つとつてん。もう何年か忘れたけど、小磯さんが朝鮮総督に行く時、「天照大神あまてらすかみかみを持つていくのか」と聞いて、「やめなさい」と言うたんです。大きな朝鮮神宮を建てて、天照大神を祭つたでしょ、あれを撤廃せえと言つたんです。

盛んに「八紘一宇」と言われとる時代でね(※八紘は全世界、宇は屋根のこと)、私は、韓国なら韓国、日本なら日本、その土地その土地で皆が幸せになるようにもつていくのが八紘一宇の思想やないか、と言つてん。朝鮮の人達が一番信仰している祖先神を祭れと言つてあげたんですよ。そうしたら朝鮮と日本が仲良うなれるやろと。でなかつたら、上から日本は偉いんやと、圧迫している形やもんね。八紘一宇の精神とちがうんじやないかと言つたら、小磯さんは「ばかやろ」と

えらい怒りよつてね。

松井大將の弟からは、「矢追さんの言うことが本当だけど、今の日本の状態として、それは不可能や。もう言わんとき」と言われたけど、私は八紘会の代表者やもの、小磯さんであろうと朝鮮総督であろうと、言うべき資格があんねん。反対してもかまへん、言うだけ言うたらええねん。

八紘会には井上日召という人も居つてん。何かしらん、いろいろな人が私にくつついてたの。あんな達、知つてるか？

石垣 血盟団(※暗殺事件を起こした右翼団体)……一人一殺……。

法主 その人はまた悪の代表やわ。あの人自身を手を下してないけど、自分が殺してるんやからね。鶴沼海岸でピストルの稽古したらしい。

井上日召は刑務所に10年間入つてたの。その出所の日に、飯田橋の東京大神宮(※東京のお伊勢さん)で初めて会いました。一人一殺やもん、恐ろしいわ。その時に、靈的感應のある人やから私の顔を見て「あなたは建設の方で、私は破壊の方だ」と、いっぺんに手を握りました。私と瞬間に心安うなつてね。

「わしは悪には強いけれども、善にも強いんや」と言われてね。井上さんが無罪になつたのは、天皇陛下のお声がかかりやつたと自分で言うて喜んではつたけどな。井上さんとう一緒におつたから、警視庁から睨まれたんですよ。

もう右翼の代表や、たいした実力者やつたけど、私が一緒におつたということをおそらく知つている人はないでしょう。血盟団のグループには絶対私を近付けなかつた。私は30歳くらい、何も知らん時ですものね。お陰さんで、ひとつも悪い方に行かんとうまい具合になつてきているんです。

井上さんのそのまた親分の頭山満さんにも、私
は会っています。

子分の中に国井(善弥)さんが居って、私の用
心棒になってくれててん。これがまた鹿島神流の、
今武蔵と言われてた武道の達人です。

石垣 植芝(盛平)。※合氣道の創始者)は、もう
逃げ歩いてたとか。

法主 国井さんと勝負したことないわ。「あんな
気違い、危のうてかなわん、怪我する」言うて。
私はそんなことよう知ってますけどね。

そんなこともありまして。お陰さんで妙な人生
やねえ。

「セミナー」は「みそぎ」に似ている

ユージン* 矢追さんの忠告を、小磯さんがきち
んと聞いておいてくれれば、多分、日韓の関係は
ずっとずっと早く修復されただろうと思います。

法主 あの時代の情勢やったら、おそらく私の言
うことなんか、軍人さんは聞かんかったわ。

ユージン母 まあ、あの時はねえ。

石垣 そんな日本人も居たということだけでも、
若い人達に、是非、聞いておいてもらいたい、と。

法主 というて、小磯さんの話は長い話やあらへ
ん。まあ、あんだだけや。

八紘一宇の天皇の詔勅は、内容はよろしいよ。
世界が一つ屋根の下でみんなが仲良ういこうやな
いかという考え方や。韓国は韓国らしく、日本は

日本らしく、ヨーロッパはヨーロッパらしく、各
々の国によってみな幸せになるように、と言うの
やからね。ところがそれが軍国主義に流れていつ

てね。私はぶち壊しにいったけど、だめだった。
ユージン* セミナーの準備もあるので、そろそ

ろ終わりにしましょうか。

法主 明日、私は身内の仏教の法事がありますの
で、夕方まで出掛けてますが。

マーシャ* どうぞお時間の空いた時に、いつで
もかまいませんから、ふっと立ち寄って下さい。

石垣 5月4日までやってます。

法主 ちょいちょい顔を出しますわ。

邑子 このセミナーは続けて出るもので、日
聖さんだけは特別の許可だそうです。(爆笑)

法主 そんなん言わんとして。皆と一緒にやもんね。
邑子 今のは冗談です。

法主 みんな唯我独尊や、同じこと。
我々肉体の持っている人間がいたら、その裏は
肉体の持たない人間がいる。それが一堂に集まる
んやから、何となく賑やかなところがある。ここ
で話し合いをすれば、聖徳太子も出てくれば、光
明皇后さんも来るし、お釈迦さんも来るし、いろ
いろな人が来る。

宇宙の仕組みがそうなってんねん。両方が仲良
うせないかん。それが「まつり」ということにな
るんやけどね。霊界の人に対しては、まつろうて
いく。そして霊界の人は、肉体の持っている人間
に慕うてきますねん。だから先祖祀りでもね、お
互いに交流することが「まつり」です。

お祭りで騒ぐことがあるけど、肉体の持っている
人間も、肉体の持たない人間も、共に一緒に騒
ぐことになるんやわね。

石垣 「まつり」の語源なんですね。言葉って意
味が深いんですね。

法主 拝殿には、私は必ず1日1回は来ます。肉
体の持たない人間に対しての挨拶があるんでね。
ただ祭壇として場所は作ってますけど、そこに居
るとちがうよ。みんなのところに居るんですよ。

ユージン* この場所を使わせて頂いてありがと
うございます。

法主 「セミナー」の、ほんまの意味は何やの?
上野 今日日本語では、勉強会とか講演会という時
にセミナーという言葉を使うことが多いようです
ね。ゼミナールと言うこともありますが、これは
多分ドイツ語で、中世くらいにあった言葉だと思
います。その頃は大学は、先生に習うよりは本人
が勉強するところだったんじゃないでしょうか。

邑子 英語でゼミナルという言葉があります。ち
よっと民衆と離れて瞑想したり勉強したりする場
所という意味です。アート・オブ・リビング・セ
ミナーの場合、たまたま係を務める人がいるけど、
皆が同じなんです。そしていろいろ意見を言い合
う……。(*平成6年6月15日、五百木邑子さん
は帰幽されました)

法主 今言われていることを聞いていると、日本
の神ながらの「みそぎ」の意味かなあと思うねん。
皆が集まって同じ立場で、一人ひとり自分の霊的
に感じたことを述べていく、皆で一緒に勉強する、
知恵を出し合う、そんなのが「みそぎ」やからね。
神主さんの祝詞の中に「神集いに集い給え、神議かみはか
りに議り給え」というのがあって、あれやね
ん。似てるわ。

石垣 「みそぎ」というのは、矢追さんからの受
け売りですけども、二つの大和言葉が一つになっ
ているんですよ。一つは「ツミソギ」という言葉
で、ツミは、罪の意味ではなくて、包み隠すとか
自分を良く見せたいという気持のことです。それ
を削いでいくと、「ミイズ」という大自然のエネ
ルギーが注ぎ込まれてくる。「ツミソギ」と「ミ
イズソギ」が一つになったのが「みそぎ」。

山岸会では研鑽……。 (笑)

法主 あんた上手に説明するわ。

石垣 名残惜しいですが、いったん終わりました
うか。

(文責・編集部)

特集 戦後73年……

小さな一歩を 常に歩み続けたい

大阪府曳野市 青山 哲也
(FIWC関西委員会)

5月11日から13日、FIWC関西委員会(フレンズ国際ワークキャンプ関西委員会)の社会人メンバー9名で沖縄のハンセン療養所・沖縄愛楽園、米軍普天間飛行場の移設先として工事が進む辺野古の米軍基地キャンプ・シュワブ、米軍普天間飛行場を望む嘉数高台、平和祈念公園にある平和の礎などを訪ねた。



◇ヤマト(日本)の「構造的差別」

那覇空港に降り立ち、レンタカーを借りて、さっそく名護市にある愛楽園に向かった。愛楽園では、大倭紫陽花邑にある「交流の家」で出会ったハンセン病快復者で、基地移設反対のためにキャンプ・シュワブ前で座り込みを続けているOさんと、Oさんの知り合いである島田善次さん(日本キリスト教団宜野湾告白伝道所)が迎えてくれた。島田さんは米軍普天間飛行場の周辺住民が騒音の発生源である米軍機の実質的な飛行差し止めや損害賠償を求めた「普天間爆音訴訟」の原告団長で、沖縄の米軍基地問題を学びたいという私たちのために、わざわざ駆けつけてくださった。島田さんは挨拶もそこそこにさっそく沖縄の近世・近代以降の歩みについて、薩摩藩の侵略、明治政府による植民地化、太平洋戦争で本土の捨て石とされ多大な犠牲を被ったこと、サンフランシスコ講和条約によって、日本の独立と引き替えに沖縄はアメリカの施政権下に残されたこと、日本が朝鮮

戦争の軍需景気で栄えているとき沖縄は「銃剣とブルドーザー」によって米軍に土地を奪われたことなどを説明された。また、戦後の日本政府による沖縄政策については、平和を守るために抑止力や基地が必要といえながら、基地負担や基地被害は沖縄に押し付けていて、そこには構造的な沖縄差別があると訴えられた。実際に、日本の国土面積の0・6%の沖縄県には、在日米軍専用施設面積の70・6%(2017年)が集中し、市民の安全が損なわれ、産業振興、土地利用に大きな制約を与えている。

そして、話の中で特に印象に残ったのが、昭和天皇が敗戦の2年後の1947年、「米國に役立ち、また日本を防衛することになる」として、アメリカ側に「25年ないし50年、あるいはそれ以上」におよぶ沖縄の長期租借を提案していたことだ。島田さんは本土や日本の国のことを「ヤマト」ということばで表現される。

普段、私は自分のことを「ヤマト」の人間として認識しているわけではない。しかし、沖縄から見ると、同じ「日本」というにはあまりにもひどい状況に沖縄が置かれていて、同じ国民であるとは到底思えないのだろう。自分のことを「ヤマトンチュ(ヤマトの人間)」といわれ戸惑いを感じる私は、その内在的な問題に気づいていなかったのだ。島田さんは最後に「ヤマトはいつまでも変わらない。沖縄を心配しなくてもいいから、まずヤマトを変えてくれ」と訴えられた。

◇国境を越えたつながり

二日目の朝は少し雨が降った。島田さんの案内で、宿泊している愛楽園から辺野古のキャンプ・シュワブに向かった。基地に着き、搬入口に待機している方に話を聞くと、今日と明日は搬入がな

いようだと伝えられた。沖縄の日本復帰46年を迎えるなか、各地で平和行進が行われていて、国側も対立を避けたのかも知れない。搬入口での座り込みに参加するのが大きな目的のひとつだったのだから、少し残念な気持ちもあつたが、搬入がないのならよしとすべきことだ。基地ゲート前には集会スペースがあり、韓国から来た団体が案内から説明を聞いていた。私たちが挨拶に向かうと、「ノレ・ノレ!(歌をうたつて!)」と声が高ぶる。抵抗運動と歌は切っても切れない関係だ。私たちのメンバーのひとりである戸張あかりさんのリードで、韓国の歌「朝露(アチミスル)」をうたつた。軍事政権下でうたい継がれた民衆歌謡で、韓国からの参加者も多くが一緒にうたつてくれた。

2年前、東村高江周辺に進む米軍ヘリパッド建設工事現場周りで、大阪府警から派遣された20代の機動隊員2人が反対派の人びとに対し「土人」「シナ人」と暴言を発した。そのことに私は衝撃を受けた。国策に反対するのは非国民であり、市民の切実な訴えを「反政府」とみなすような感覚、沖縄の現状への無理解はまさに「構造的な差別」の現れであり、特定の民族や自分と違う考えを持つ人間への偏見に基づく暴言(ヘイトスピーチ)でもあつて、このような意識が公務員である警察にまで広がっていることに暗澹たる思いを抱いた。基地問題に取り組む韓国人の人びとと出会って、同じ米軍の基地問題で苦しむ市民が、同じ苦しみを抱える市民に共感し、ともに活動しようとするのは自然なことだと感じた。たとえ、基地移設反対派のなかに外国人がいても問題はなはいはずだ。そこに国境線を引く必要はまったくない。

◇京都の塔

キャンプ・シュワブの後は、島田さんが牧師を

する宜野湾市の教会を訪ね、嘉数高台公園を案内してもらった。嘉数高台公園からは、住宅街のなかに普天間飛行場が一望できる。この日も滑走路には海兵隊の輸送機オスプレイがずらりと駐機されていた。公園のある高台は嘉数高地と呼ばれ、日本軍のトーチカや陣地壕などが残されている。沖繩戦では激戦地となり、日米両軍と地元住民に多くの犠牲者を出した。

戦死者には多くの京都出身の将兵がいたので、公園内には慰霊碑「京都の塔」がある。碑文には、「京都府下出身の将兵二千五百三十有余の人びとが遠く郷土に想いをよせ、ひたすら祖国の興隆を念じつつ、ついに砲煙弾雨の中に倒れた。また多くの沖繩住民も運命を共にされたことは誠に哀惜に絶へない」と記されている。京都で生まれ育った私は、多くの郷土の先輩がここで亡くなったことを知り、彼らはどれだけ無念だっただろう、彼らの夢や希望はどんなことだったのだろうと考えずにはいられなかった。亡くなった人びとのことは決して忘れない。島田さんによると、殉国美談調の文言がなく、住民の被害にも触れた碑文は、他にはほとんどないとのことだった。

同じ高台には「青丘之塔」という朝鮮半島出身の方々を祀った塔もあり、亡くなった方々の悲しみや無念を一層感じた。

◇愛楽園七戦場に

3日目、最終日の朝は愛楽園の園内を散策。資料館を見学し、納骨堂をお参りした。園内のコンクリートの壁や水タンクには、戦争中の被弾痕が今でも残っており、愛楽園も戦争と無縁でなかったことを物語っていた。沖繩では1944年に大規模な患者収容があり、当時、愛楽園には定員450名をはるかに超える913名が入所してい

た。患者たちは治療どころか医療補助や重症患者の介護、食事の世話、食糧増産の作業を行い、さらに早田園長の指示により「早田壕」と呼ばれる防空壕を約50カ所掘らなければならなかった。昼夜を通した作業の結果、けがから健康状態を悪化させた入所者も多かった。空襲や艦砲射撃が始まると入所者たちは壕に入ってしまった。米軍の攻撃で亡くなった入所者は1名だけだった。しかし、過酷な作業、治療もできず、食料もないなかで体力を落とした患者は、栄養失調やマラリアなどに罹患し、44年9月から45年12月までの間に289名が亡くなった。愛楽園が赤十字旗を掲げるなど、何らかの形で医療施設であることを米軍に知らせておけば、攻撃は別の形をとったかもしれないが、そのようなことを園側がすることはなかった。愛楽園を標的にひとつの弾でも多く使わせて、米軍を消耗させる方針だったともいわれている。

◇「ひめゆりの塔」「平和の礎」へ

午後は宜野湾海浜公園で開催された「平和とくらしを守る県民大会」に参加し、帰阪の飛行機の時間までに、駆け足で糸満市にある「ひめゆりの塔」と摩文仁の平和祈念公園にある「平和の礎」を訪ねた。沖繩戦で日本軍は米軍の攻勢に遭い、首里にあった司令部壕で参謀会議を開いたあと、南部への撤退を決めた。沖繩戦を長引かせることになった首里撤退の決定は、南部に住む人びとの生活の場が戦場になるだけでなく、南部に避難していた十数万人の住民も地上戦に巻き込んでいった。また、よく知られるように、この戦闘には男子学徒(旧制中学生含む)が戦闘要員として動員された「鉄血勤皇隊」や、女子学徒(高等女学校生含む)が看護要員として動員された「ひめゆり」「白梅」などの各学徒隊が参加していた。男子学

徒は1685名が動員され、うち732名が亡くなり、女子学徒は555名が動員され、194名が亡くなった。ひめゆりの塔の前にはたくさんの花が捧げられ、人びとが祈りを捧げていた。

平和の礎は戦後50年にあたる1995年に完成した。沖繩戦で亡くなった戦没者の名前が海を望む黒い板状の碑に国籍を問わずに刻まれている。刻銘者数は日本人の他、米国、英国、台湾、北朝鮮、韓国を合わせて今年6月現在で24万1525名。県内出身者については、名前が分らない場合も、それが子どもであれば親の名前のあとに「長女」「子」などと続柄を記すことで、生きていた証として刻銘している。私たちが訪れたとき、修学旅行生が黙祷をし、千羽鶴を捧げていた。沖繩戦では、彼らと同じような年齢の少年少女が次々に亡くなっていった。目の前にいる学生たちには、彼らの分も、平和のなかで希望を持って生きていってほしいと思った。

◇戦わないために、いま闘う

日本でほとんど唯一といっていい地上戦が行われ多くの犠牲者を出した沖繩は、いままも米国や日本の軍事戦略の負担を背負わされている。巨大な米軍基地を抱え、日米地位協定のために基本的な権さえ十分に守られていない現状は、まさに私たちが沖繩に強いる「構造的差別」である。沖繩の犠牲のうえに、私たちは安全や平和を享受しているのだということを実感した。平和を求める沖繩の人びとと協力しつつ、私は自分の町で、自分の身近なつながりのなかから、平和のための活動をしていきたいと思う。戦争で亡くなり傷を負った兵士、大切な家族を失った人たちの苦しみや悲しみを忘れず、同じ過ちを繰り返かえさないように小さな一歩を常に歩み続けていきたい。

平成30年6月17日
第339回大倭会文化行事によせて

(下)

「八尾(やお・地名)と、弓削(ゆげ・神社)」が気になった

杉本 順

先月(上)では、弓削の道鏡の出自と孝謙天皇の關係だけを少し書くにとどまった。今回はそれが矢追家とどういう縁なのかを書いてみます。その前に当時をいろいろと人物にふれておきます。

資料⑤

岩波書店『日本史年表』・山川出版社『日本史人物辞典』から

七四九年 聖武天皇讓位し阿倍内親王(孝謙天皇・光明子娘)即位する。光明皇太后のため設置された紫微中台の長官に、藤原仲麻呂(光明子の甥・孝謙の従兄妹)が任じられた。

七五七年 大炊王(天武天皇の孫、舍人親王の第七子)仲麻呂の庇護をうけ皇太子道祖王が廃された後、仲麻呂に推されて立太子に。

七五八年 孝謙天皇讓位をうけて大炊王(淳仁天皇)即位する。

七六二年 しかし淳仁天皇は孝謙太上天皇との間に不和が生じて権力を奪われ 惠美押勝(仲麻呂の乱(七六四年)の直後に皇位を廃されて淡路に移された。翌年逃亡に失敗して同地に没した。淳仁を廃して孝謙は重祚、称徳天皇となる。重祚後は僧道鏡を重く用い、西大寺や平城京東院の玉殿、由義宮などの造営工事を行うなどして政治・財政の混乱をまねき貴族の反感をかう。

資料⑥

角川文庫『日本史探訪4 大仏開眼と平安遷都』から

孝謙・称徳女帝 永井路子・門脇貞二より

【七六一年、近江の保良宮に行幸中の孝謙上皇は、病に臥した。そこで、内道場禪師、道鏡がそばに侍して看病にあたった。道鏡は、河内国若江郡(大阪府八尾市)の豪族、弓削氏の家の生れである。若い時から仏典に親しみ、厳しい修行を重ね、梵文(サンスクリット)にもよく通じていたという。四十四歳の女帝は、病が癒えたあとも、道鏡を近侍させて離さなかった。】

永井 道鏡の生れた年がはつきりしないのだけれど、だいたい仲麻呂と同じくらいと見るのがいようですね。そして、仲麻呂と同じように道鏡自身も、学があるんです。サンスクリットができたといいえますから、当時としては、たいへんな文化人であり、教養人ですね。

門脇 道鏡は若い時に、葛城山に籠って修行したともいわれます。葛城山はあの役の行者で有名な場所ですね。こんなところから、道鏡を非常な神通力を有した怪僧、妖僧のように考える人もいますが、ぼくは疑問に思います。当時の史料に如意輪宿曜秘法を行ったということが書いてあるし、また看病禪師でありましたから、まったく呪術的なことをしなかったとは言いがたいでしょうが、しかし、これは当時の仏教全体がそういう性格のもので、特に、道鏡だけということにはなりません。むしろ、東大寺のような官寺の中で、オーソドックスな僧侶のコースを歩いてきた人と見たほうがよさそうです。

永井 怪しげな秘法を行う怪僧という道鏡像は、どうも後世になって作られたものようですね。

【女帝は、淳仁天皇を廃する詔の中で、先帝、聖武天皇が娘である自分に「王を奴となすとも、奴を王と伝ふとも、汝の為むまに」と遺言したと宣言している。未婚のままに皇太子を持たない異例の天皇は、やはりこの先の皇嗣問題に深刻に思

い及ばざるをえなかった。その不安から逃れるかのように、女帝は道鏡への傾倒をますます深めていった。道鏡を大臣禪師に任じた時にその理由を「出家した帝には出家の大臣もあつてしかるべきだ」と詔の中で述べた女帝は、その一年後に、道鏡を太政大臣禪師にした。【七六六年、山階寺の僧基真が、隅寺の毘沙門天の像のそばに仏舍利が現れたと申し出た。基真は正五位に叙せられ仏舍利は法華寺に運ばれ盛大華麗な法会が営まれた。その日の宣命に、女帝はこうした奇しき尊き験が現れたのは、ひとえに仏の師道鏡の勤行によるものとして、彼に法王の位を授けた。】

門脇 法王というのは実質的には天皇と同じですね。「法王の月料は、供御(天皇の食事・用料)に准せしむ」とありますから、文字どおり、法の世界の王を意味します。この仏舍利出現の奇跡は、のちにインチキだったことがばれた基真は罰せられました。

【七六九年の夏、大宰府から「道鏡を天皇にすれば天下は太平になる」という宇佐八幡神の神託が朝廷に報告された。翌月、女帝の側近尼法均の弟の和氣清麻呂が神託を確かめるべく、宇佐へ出発した。清麻呂が持ち帰ったのは「皇位には皇族の人を立てるべきであつて、道理をわきまえぬ人間は斥けねばならぬ」【女帝は激怒、清麻呂および、姉の法均尼(広虫)の官位を剥奪し、名をそれぞれ別部穢麻呂、別部狹虫として、大隅と備後へ配流にした。】【七七〇年八月、女帝没す。道鏡下野に配流。九月 和氣姉弟を召還。】

日聖法主の遺された記録から(続き)

矢追家八代 宗將の子に宗祐・廣虫・清麻呂と系図にあり。

(別行に) 清麻呂ノ和氣八天皇ヨリ之ヲ賜ハレタ

あじさい日記

7月14日 午後、交流の家でF IWC定例委員会。西日本豪雨災害支援キャンペーンの提案もありました。

7月15日 大倭神宮月次祭。

この日が結婚15周年という山崎基央・スバラック夫妻(岡山県真庭市美甘) が参拝されました。

7月18日 今年も大倭会館付近の「セアカゴケグモ」の駆除作業。一匹もいなかったとのこと。良かった！

7月23日 大倭大本宮月次祭。この日は昭和42年7月23日の月次祭法話をお聞きしました。午後4時から大倭会館で、東

光大祭準備・一泊文化行事・文化講演会等について大倭会役員会議を行いました。

7月30日 この度の12号台風により、紫陽花邑の西斎庭の南角に大きく育っていた柳の木が裂けたため、安全を考え残念ながら根元から伐採されました。

7月31日 瑞光院の屋根の掃除をしていただきました。

8月1日 大倭病院開院31周年のこの日、病院守護霊「東山坊大善神」お社の前で、教長さんを祭司に一年間の感謝とこれからの一年の無事を願ってご挨拶しました。

8月5日 大倭会館で午前11時30分から故矢追穂義さんの帰幽5年祭が行われました。

8月6日 広島原爆投下の朝8

第340回大倭会文化行事 —人生の最期をどう迎えるか、 実践医療の「野の花診療所」へ—

- 日にち** 平成30年10月28日(日)～29日(月)
- 行き先** 鳥取方面、砂の美術館・野の花診療所など
- 集合** 奈良 大倭病院前
- 行程** 貸切バスで各所訪問
(1日目) 奈良⇒(中国縦貫道)⇒鳥取砂丘・砂の美術館⇒泊
(2日目) 鳥取博物館 鳥取城 昼食
⇒野の花診療所医師・徳永進さん講演13～14時
⇒大原 武蔵の里⇒奈良
- 宿泊** (はわい) 羽合温泉 望湖楼
- 費用** 3.1万円程度
- 問合せ** 湯浅携帯 090-6987-5847

時15分、李章根さんが打ち鳴らす拜殿の太鼓に想いを起こさされて、犠牲者(人間だけではアリマセン)に鎮魂の黙祷をささげました。

大倭神宮月次祭。

夜、大倭会館で呂倭の会。

8月9日 長崎原爆投下の午前11時2分、中島健さんの打ち鳴らす拜殿の太鼓に合わせ犠牲者に鎮魂の黙祷をささげました。

大倭安宿宛では

7月17日 菅原園出火想定で防災避難訓練が行われました。

7月25日 新入職員研修会。

(菅原園)

7月14日 通所部門で、家族参加の話し合いの会とお楽しみ会を開催しました。

こぼれずみ

神奈川県大和市 永仮まゆり
最首悟さんが、相模原障害者施設での殺傷事件の被告人と手紙のやりとりをしているという新聞記事を読んだ。

最首さんは、重度障害の娘・星子さん(四十二歳)と共に暮らしている。最首さんは二年前に事件が起こった当初から、被告人は精神異常者でも薬物依存者でもなく正気だと断言した。獄中の被告人と実際に対面して、それが確信に変わった。被告人は、社会にとって正しいことをしたという信念を、獄中で益々強くしているようだ。その

(須加宮寮)
7月19日 買物会でイズミヤ学園前店へ出掛けました。

(長曾根寮)

7月26日(特養)誕生会で6名(内白寿と106歳が各1名)の方のお祝いをしました。

8月9日(デイ)流しそうめんを行い大変好評でした。

(茂毛路園)

8月8日 先生に来て頂き書道クラブ、今回は4名が参加。

(八重垣園)

7月 新入居者2名、クラブ活動にも熱心に参加されています。

考えを支持するネットの書き込みも多いという。最首さんは言う。「日本には『働かざる者食うべからず』という、生産能力の低い者を排除する風潮がある。社会の圧倒的多数がそのような考えを心を持っており、被告人はその多数の潜在意識の前置として出てきた」

私達は育った社会環境の影響を否応なしに受け、社会を必要とし、それを反映した生き物だ。私達は常識を必要とするが、常識を根源から問い直す必要も同時に抱えている。正気とはなにか。犯罪者が社会の鏡だとするならば、権威や経済・成功などの力への盲信、またそのような力に靡く社会風潮や同調・精神構造に、その温床を見ることがもなる。

くだま くだま

群馬県富岡市 西川 美保

ご無沙汰をしています。主人(正明)が4月に苗を植

えて大切に大切に、毎日声をかけて育てて来たオクラやピーマンが食べられるようになりました。さっそく先祖様に報告して食べて頂き、そのあと私達もおいしく笑顔で頂きました。地主さん、地主さんのご先祖様、天地自然の神々様、そして主人

……ありがたく幸せな事です。これが「ゼイタク」です。

(※祖霊祭について) いつもありがとうございます。暑い中、大変ですが、どうぞ今年もよろしくお願い致します。大倭の皆様笑顔に逢いたいなあ。皆様とつながっている……と思うと私は元気が出て来ます。それではお身体、ご自愛ください。

あんない

*月次祭(大倭神宮)
9月6日(木) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第596回祝会
9月9日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

*月次祭(大倭神宮)
9月15日(土) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大倭大本宮)
9月23日(日・秋分の日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。